

優秀賞

手話で広がるわたしの世かい

愛知県 岡崎市立梅園小学校三年 渡邊 葉

わたしは、七月二十六日におかぎき市図書館交りゆうプラザりぶらで行なわれた手話で歌を発表するイベントにさんかしました。わたしたちはこの日のために三月から練習をつづけてきました。練習した手話歌は五曲でした。そのうち三曲は少し早くおぼえられたけれど、のこりの二曲はなかなかおぼえられませんでした。だからその二曲を家でもたくさん練習しました。だけど本番では、少しまちがえてしまいました。その時すぐくあせりましたが、表じょうをかえずにやりつづけました。そのことを友だちに聞いてみました。

「わたし、手話で歌っている時まちがえちゃったんだ。」

「えっ。そうなの、ぜんぜん気づかなかった。」

わたしはその言葉を聞いて安心しました。そしてえがおをたやさず、さい後までがんばったおかげか

など思いました。始まる前、わたしはまちがえてしまわないか心配ですごくきんちようしていましたが、本番はまよわず手話歌の発表ができました。歌の発表が終わった後、友だちに、

「しおりちゃん、うまかったよ。三月からおぼえていたんだね。すごい。」

「しおり、おれも手話やりたい！」
と言われました。わたしは見に来てくれた友だちが手話にきょうみを持ってくれたことがとてもうれしかったです。

わたしは、このイベントではじめて会った耳が聞こえない方と、手話でたくさん話をする事ができました。その方と、お話したきっかけは、わたしが手話で話しかけたことです。その方はわたしを耳の聞こえない子だとかんちがいをしていました。わたしがその理由をたずねると、

「手話が上手だから。」

と、答えてくれたのでうれしかったです。わたしはしかいの人が話していたことをその方にわたしの知っている手話でつたえました。そしたら、

「オッケー。分かった。ありがとう。」

と返してくれました。

わたしは、今年の夏休みに手話のいろいろな体けんをさせてもらいました。じっさいに耳が聞こえない方と話すごができ、しっぱいしても大じょうぶだと分かったので自分にじしんが持てました。

わたしのゆめは手話通やく者になることです。そのためには、手話の本を読んで、おぼえたり耳の聞こえない人に会う時があれば、たくさん使って、わたしのゆめに近づきたいです。

